

優秀賞

おいしい水を全国そして世界へ

黒部市立清明中学校 二年 辻 笑花

私たちが住む黒部市はとてもおいしい水に恵まれている。なぜなら、黒部の水は標高三千メートル級の北アルプスの山々に降り積もった、清らかな雪解け水が地層へゆっくり浸透し、地下水となつて黒部平野を流れるからだ。その過程で地中のミネラルをバランスよく含み、まろやかでおいしい水となる。また大きな黒部ダムによつて水を蓄えることができ、おいしい水と共に生活している。この恵まれた自然環境の中で育つた私は、水がどれだけ大切で、水がなければどうなってしまうのか、深く考えることはなかった。

しかし、最近石川県で大地震が起きた。私も大きな揺れを体験した。幸い大きな被害は出なかったが、ニュースを見てみると石川県での断水が報道されていた。最初は石川県だけだと思つていたら、富山県でも断水している地域があることを知った。地震が起きた当初はあまり考えずにいたが、いろいろなニュースが増え、断水がどんなに大変なことか考えるようになった。断水したら、水を飲むことはできないし、お風呂にも入れない。トイレもできない。顔も洗えない。なんて大変なことなのだ。そこで私は水の大切さに気付くことができた。

私たちが毎日何気なく使っている水。だが、その水がないと私たちは生きていくことができない。だけど私は、菌磨きのとき水道を出しっぱなしにしたり、お風呂で水を出しっぱなしにしたりと、水と生きていく幸せが当たり前のように過ごしてしまっている。そんな中、世界では二十二億人、つまり十人に三人が安全に管理された水を使用できずにいるという。例えばアフリカでは多くの場所で水や衛生環境に問題があり、安全な水を確保できないことで子供たちの命に危険が迫っている。調べるとアフリカでは毎日大きな入れ物を持って茶色く濁った水を汲みに出かける人がいるそうだ。茶色く濁った安全でない水だが、それを汲みにいかなければ生きていけないと思うと、水道をひ

ねれば安全な水が出る私たちの生活はどれだけ恵まれているのだろうと思う。そんな幸せをかみしめて生きていくことが私たちに少しでもできることだと思ふ。一人一人の少しの意識で水問題解消につながるかもしれない。そこで、水問題解消のために私たちができることを調べてみた。洗濯、トイレなどでの無駄遣いをへらす、調理器具や食器は油や汚れを拭いてから洗う、お風呂の残り湯を有効活用する、石鹸や洗剤を使いすぎない、などが書かれていた。私はその記事を見て石鹸を使いすぎないことと水問題になにが関係あるのか最初はさういうことなのかと疑問に思つたが、よく考えてみると石鹸を使えばさうほど洗い流す分、たくさんのお水を使うことになる。さうなることで汚水が流れ、世界中に悪影響を及ぼすほとんどに少しのことでも意識することは、世界に大きな影響を与えることができるかもしれない。日本はとも水に恵まれていると思ふ。だからこそ、水問題に苦しむ世界の人々が一人でも減るように、日本ができることはもつとあるのかもしれない。まず、世界には水問題に苦しむ人がいるということをもつとたくさんの人に知ってもらいたい。そして、国連や政府が取り組んでいる、支援活動だけに任せるのではなく、個人ができることに取り組むことが大切ということを理解してほしい。自分自身も常にその意識を持ちながら、今、自分にできることは何なのかを考えて行動に移していきたいと思ふ。